

2017年度学校自己評価

東海大学付属熊本星翔高等学校

4段階評価（ 4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそうは思わない、1：そう思わない ）

分野	重点目標	成果と課題	2016年度	2017年度	改善策
学校運営	学校運営方針に沿った教育活動を実践し、地域から高い評価を受ける学校づくりと、中学校や保護者に選ばれる学校づくりに邁進する。	第1回目の結果では、保護者への「教職員の、電話や来客への対応は適切であると思いますか」の質問以外は、6項目も昨年度から下回っている。「本校に入学させたい、したいと思いませんか」に関しては、生徒はアップしているが、保護者は下がっている状態であり、本校のここ数年の生徒数増加とは相反する結果が出たようである。「教員は教育に熱心に取り組んでいるか」に関しては、生徒・教職員においては、ポイントはアップしているが、保護者においてはダウンしている。第2回目の結果もあまり変りはなく、保護者の評価が下がっている。教職員では、「教職員は教育に熱心に取り組んでいる」の項目について1回目・2回目を統合すると昨年よりも下回っている。生徒・教職員と保護者の評価に結構ギャップがあるのが気になるところである。	生徒 2.94	生徒 3.04	「教職員は教育に熱心に取り組んでいる」の項目で、保護者・教職員のポイントは下がったものの、本校教職員は手前味噌かもしれないが、本当に一所懸命に教育活動を展開されていると思う。また、「保護者や地域との連携や情報発信に努めている」においても同様に、保護者・教職員のポイントは下がっているが、本校HPの更新も行なわれており、地域の清掃活動へも積極的に参加をしているので、問題はないと思う。また、第三者委員会においても、この項目について逆に好印象を持っているのご指摘を受けたので、今後も自信を持っていきたい。ただし、改めるべき点や反省すべき点もあると思うので、色々と分析をしながら改善していきたいと考える。電話や来客の対応については、継続して注意していきたい。
			保護者 3.15	保護者 2.89	
			教職員 3.02	教職員 3.66	
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実。	教職員対象で、「授業の指導方法や内容に工夫」「授業を通して、確実に学力を付けさせている」「家庭学習の習慣づけ」等はポイントがアップしていたことは、大変良いことである。アンケートにおいては若干遠慮気味に回答するところであるが、各教員が努力している成果であろうと推測する。また、生徒においては結構ポイントがアップしていたことは喜ばしいところである。保護者の方々から「ベストティーチャー制度」を観た場合に、ポイントが下がっていた。PTA主催であるが、内容をもう少し保護者に伝達する必要があるように感じる。長年に亘って「朝の10分間読書」を実践しており、本を読む習慣は結構付いてきていると考えていただけに生徒・教職員において、この項目が下がっていることについては、残念な結果であった。	生徒 2.58	生徒 2.62	ベストティーチャー制度に関しては、随分と定着をしてきていると思う。保護者の参観も増えてきており、保護者のポイントにおいても若干減りはしたものの、授業の充実との観点から言えば、今後もPTAとの連携を図りながら、充実したシステムにさせていきたい。図書館の利用に関しては感性や語彙力アップという観点からも推進させていきたい。図書館（本校ではメディアルームという）の関係者も運営面等においても新しい企画等も提案したりしており充実してきている。また、本年度は熊本市の図書委員研集会の当番校でもあり、他校にも、図書委員の仕事に関して提案等をさせていただいている。東海大学との連携した授業（出前授業）やプログラムに関しても更に高大連携を充実させていきたい。
			保護者 2.82	保護者 2.81	
			教職員 2.66	教職員 3.03	
クラス指導	生きる力の育成に励む	生徒は、全ての項目においてポイントはアップしているが、逆に保護者に関しては、全てにおいて下がっている。このギャップについては今後十分に分析をして対策を講じていかなければいけない。教員においてもポイントが下がっている。「生徒間の好ましい人間関係の構築に努めている」「生徒にクラス・学校の一員としての役割を果たさせている」の項目で下がっており、不思議な感じを受けた。第2回目においても1回目と変わらずに、生徒はポイント	生徒 3.09	生徒 3.15	結果に対して、憂慮していたが、第三者委員会の方々のご意見として、生徒の評価を第一に考えた方が良いとのご指摘を受けたので、若干安心をしている次第である。しかしながら、何故ポイントが下がったのかという事については、今後は様々な機会に検討していきたい。様々な価値観を持った生徒がおり、各家庭の考え方の違いを痛切に感じる時代となってきている。学校に対して、何を保護者の方々が求めているのか。という観点で調
			保護者 3.16	保護者 3.10	

		が高いが、保護者・教職員のポイントは大きく下回っている点が、憂慮するところである。物差し、基準を明確にしていく必要がある。ただ単に生徒にとって都合の良い環境であるとしたら、大いに考えていく必要がある。学校が楽しいという事は、悪いことではないので、検討の余地が大いにある。	教職員 3.11	教職員 3.06	査及び検討をしていきたい。また、質問内容でも大きく変化をするようであるので、質問項目の更なる見直しを委員会において検討したい。校名変更以来、2 学年から 3 学年においては、クラス替えなし、学級担任の変更もなし。であるが、この辺りも質問をしてみたいところである。
生活指導	生活習慣の定着を徹底し落ち着きのある学校生活環境づくりに努める	生徒・教職員・保護者（横ばい）共に、「身だしなみ」の部分ではポイントが上がっている。しかしながら、数年前と比べて、良くなっているのか。と考えた時に、少し疑問が残る。この辺りの感覚の相違が指導の難しさに繋がるのではないかと心配するところである。「清掃や整理整頓」「あいさつ」の項目においても然りである。学校というところと地域等が観る感覚のズレがあるように思える。2012年の校名変更から、「あいさつ日本一」を掲げてきたが、最近はいいさつにおいて、胸を張ってよく出来ているとは到底いえないような状態である。コミュニケーションを取っていく中では、あいさつは大切なところである。横ばい状態ではなく、目に見えるところであるので、大いに力を入れるべきであろう。学習・生徒指導は両輪である。	生徒 3.22	生徒 3.26	制服の着こなしや女子の化粧等で、極端に悪い訳ではないが、崩れた状態の生徒がいることは事実である。教員も一所懸命の指導をしているが、保護者の中にも感覚的に理解をしていただけない方もおり、指導において難しい場面も結構ある。とにかく、理解させる指導を根気強く行なっていく意外に道はない。と考えているので、アプローチの仕方は様々で良いが、教員が同じ方向を向いて指導していきたい。あいさつに関しては、第三者委員会においても、本校生徒は良くあいさつをしてくれる。というお褒めの言葉をいただき、地域の方々や教員とのギャップを感じた。教員が元気の良い明るいあいさつを実践していけば、必ず良い方向へ向っていくと思うので、率先垂範でまずは教員が良いあいさつを心がけていきたい。
		保護者 3.15	保護者 3.14		
		教職員 2.88	教職員 2.90		
進路指導	上級学校への内部進学者を一定以上確保する	進路に関しても、生徒と保護者、教職員の意識の違いが現れている。三者面談や進路に関する行事等において、本校はきちんと出来ているのではないかと、思っていただけに厳しい結果であった。具体的に何が良くて、何が足りないのか等の検討が必要に感じる。学園の付属高校としての進路指導が保護者の方々には理解が難しいところであったのかもしれない。ただし、冬休み前から1・2年生は3者面談を実施、3学年もほぼ進路が決定してきた時期であり、保護者・教職員については、第1回目よりも第2回目のポイントが上がってきたことは、少しは良かったのではないかと。本校の進路指導の基本的なところである、東海大学への付属推薦の推進に関して十分な説明等が今後も必要であろう。学部説明等だけでは伝わらない部分があるのではないかと。	生徒 3.04	生徒 3.09	東海大学の付属高等学校として、付属推薦に力を入れて指導を改めて初めて6年となる。現在は60%弱の付属推薦者がいる。今後も東海大学への付属推薦を推進していくが、今まで以上に学部・学科の説明を保護者・生徒へ丁寧にしていくことが大切である。近年では、女子生徒が増加して4割強が女子となってきた。女子の付属推薦希望が減少傾向であるので、今後は女子に対しても進路指導においても付属推薦について、詳しく説明して必要がある。本校教員は実に丁寧に、一所懸命に進路指導をしているので、卒業時には大半の保護者の方々から感謝をされているのが現状である。しかしながら、アンケート結果に関しては、結果を謙虚に受け止めて、より充実した進路指導を構築していきたい。
		保護者 3.14	保護者 3.06		
		教職員 3.14	教職員 3.15		
特別活動	部活動の更なる推進と生徒会活動の充実	部活動加入率を調べて見なければわからないが、若干加入状況は下がっているようだ。本年度は様々な部活動において輝かしい結果を出しているものの、ポイントにおいては横ばい状態の感じである。教職員も本当に一所懸命に部活動指導には携わっていると思っただけに、ちょっと残念な数値である。しかしながら、1500名近くの生徒がおり、6割が部活動に加入したとしても、残りは900名近くいることになる。まだまだ、部活動への加入を推進して、帰属意識を持たせる事で、他の部分も活気が出てくるように思える。私立である以上は、大いに特色を打ち出していくためにも、今一度部活動について考えていきたい。後は、生徒会活動の在り方である。生徒全体が生徒会に関してもう少し意識を持つと雰囲気は変わるのではないだろうか。	生徒 3.09	生徒 3.13	成果と課題のところでも述べたが、部活動加入率を今まで以上に伸ばしていきたいところであるが、顧問の問題や施設の問題もあり難しい状態でもある。ただし、「学習と部活動の両立」を謳っている以上は、8割くらいは各部活動に所属してもらいたいと思う。戦績は勿論であるが、人間形成の面からも部活動は必要であり、大事なものである。教員は多忙であり、なかなか部活動指導に力を入れづらい部分もあるが、生徒の人間力アップのために、力を注いで欲しいものである。生徒会活動も顧問の尽力によって、学校行事等において盛んに行なっている。もっと各種委員会が活発化してくると、学校に活気が出てくるし、自主性も培われていくと考える。要は、教員の係り方次第であるので、頑張っていきたい。
		保護者 3.11	保護者 3.08		
		教職員 3.24	教職員 3.28		

その他	<p>受験者数もここ数年一定の数値となってきた。本校への期待度が上がってきていると、手前味噌ではあるが認識している次第である。その中で、本年度の学校評価に関しては、保護者のポイントが若干ではあるものの低かったようである。第三者委員会を開催するまでは大変憂慮していたが、質問項目の見直しや生徒のポイントに重きを置いたほうが良い等のご指摘を受け、本校の教育活動は間違いないと自信を取り戻した次第である。しかしながら、ポイントが下がったことは事実であるので、謙虚に受け止めて、より一層向上していくように検討をしていきたいと考える。また、学校評価委員会の検討会を頻繁に行いながら、学校がまだまだ輝いていくように努力をしていきたい。兎にも角にも、2018年度（平成30年度）は、質問項目をきちんと見直して、解り易いものにしていく必要性を感じている。早急に着手して、1学期の終わりに生徒・保護者・教職員へアンケートを実施していく。</p>
-----	---